

伊達な
国際交流員の
つれづれコラム
vol.94



「振り返ることと自分のベストで生きていくこと」

Checking In and Living our Best 英訳版を見る▶



お正月は、東京で義理の家族と一緒に過ごす予定です。アメリカに住んでいる時は、学校の冬休みが短いので、日本の義理の家族の家で過ごすことは出来ませんでした。ただ、ワシントン・D・Cでもおせち料理を楽しむことができ、我が家はレストランからテイクアウトしてお家で食べていました。仲の良い友人たちにもおせちを食べる人がおり、毎年お正月はおせちの中身の話題で盛り上がっていました。

の年について振り返り、そして今年の新しい一年間で何をしたいかを考えます。特に今年は大きな変化がありました。それは、アメリカから家族で伊達市に引っ越したことです。自分も家族のみんなも新しい仲間・友達を作り、新しい生活に少しずつ順応してきました。私の新年の願いは、友人にポストカードを送ること、好きな備前焼のマグカップでコーヒーを楽しむこと、温泉を訪れること、そして家族と日常の何気ない時間も大切に過ごすことです。市民の皆さんに新しい企画を提供するため昨年以上に全力を注ぎ、今年も皆さんと会えることを心から楽しみにしています。それでは、よいお正月をお過ごしください。(イボンヌ)

地域の魅力
ふる里再発見

江戸時代の先祖調査



「梁川城跡 本丸跡」

今から約400年前の延宝3年(1675)12月、仙台藩伊達家の家臣である落合勘左衛門・窪田権九郎の2名が伊達郡にやってきました。当時の藩主・伊達綱村が先祖の地を調べるように命じたからです。2人は藤田・桑折を回り、梁川にもやってきました。彼らの調査報告書に「町屋四百軒余」「伊達信夫巡見仕候覚書」(仙台市博物館蔵)と書かれた梁川はにぎわっていたことでしょう。2人は梁川城に行きました。彼らが来る直前、梁川は上杉領から幕府領になり、梁川城も廃城になっていました。報告書に梁川城の建物の記載はな



「現在の梁川天神社」

く、堀・土塁・池が描かれているだけです。城主のことは、「須田大炊とその子どもが最近までいた」と簡潔に記しています。この「須田大炊とその子」とは、須田長義と秀満のことです。上杉景勝に仕えた武士で、長義は大坂冬の陣(1614年)で活躍しましたが、その時の傷が悪化して亡くなりました。秀満は寛永2年(1625)に梁川天神社を改修しました。その後、寛文4年(1664)に幕府代官に城を明け渡し、米沢に向かっています。落合・窪田2名の足取りをたどると、当時の状況が見えてきます。

にじいろのだて(男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『ワーク・ライフ・バランス』…誰もが仕事、家庭生活、地域生活などのさまざまな活動の中で、ライフステージに応じた多様な生き方が選択・実現できることを目指す考え。

